



農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

平地農業地域



キーワード

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

組織の広域化・体制強化

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積51ha
(田41ha、畑10ha)
- ・資源量 水路14.2km
農道4.4km
- ・主な構成員 自治会、女性会、
土地改良区 等
- ・交付金 約3.8百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

あかさき みどり かい ことうちょう
赤碕水土里の会 (鳥取県琴浦町)

- 赤碕水土里の会は、前身組織である湯坂農地保全会の活動期間満了を契機に平成30年度より本交付金による取組を実施。平成30年度設立時の広域協定には湯坂集落のほか、新たに向原集落、光集落も参加し、3集落で活動を開始した。
- 湯坂集落では、広域組織設立以前から子ども会、女性会と共同で施設への植栽活動を行っていたが、広域組織設立後は向原集落でも同様の取組を開始。
- 非農家を含む地域住民へ農業、農村の多面的機能を維持することについて啓発を行うとともに、住民同士の交流の場となっている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、組織の高齢化に伴い平成30年度から3集落の広域協定による活動を行っている。
- 湯坂集落では広域組織設立前から植栽活動に取り組んでいたが、広域組織の設立により、未取組であった向原集落にも活動が波及。現在は向原集落でも地域内の植栽による景観形成活動に取り組んでいる。



向原集落での植栽活動

取組内容

- 施設への植栽による景観形成活動。
- 上記活動に子どもや女性が参加することによる地域内の啓発・普及。
(それぞれ2集落で実施)
- 鳥獣被害発生防止のため、電柵の設置を行い、定期的に巡回を行う。
- 事務局である改良区が年数回活動内容をブログで更新。
- 遊休農地発生防止の活動。



取組の効果

- 子どもや非農家も関わることで活動を実施することにより、役員や農家中心だった活動に幅広い理解や協力が得られるようになった。
- 鳥獣による畔崩れや農作物被害が減少した。(5件/年→1件/年)
- 地元関係者が閲覧できるようにしており、事業の実施状況の透明化を図っている。



赤碕水土里の会ブログ



よしたにのうちほぜんかい

よなごし

吉谷農地保全会（鳥取県米子市）

- 吉谷農地保全会は、平成27年度より本交付金による取組を実施している
- 本地域（組織）の特徴として、地域のため池により農地を灌漑し、良質な米を主に生産している。
- この活動により、年2回集落全体で実施するため池を中心とした草刈りやため池内の清掃を行い、環境美化に努めている。
- これにより、ため池の管理、点検を集落全体で行うようになった。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積13.92ha
（田13.3ha、畑0.6ha）
- ・資源量 水路5.2km
農道2.5km
ため池4箇所
- ・主な構成員 農業者
- ・交付金 約0.4万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、年2回集落でため池を中心とした草刈り作業を各担当者中心にそれぞれ実施していたが、作業者の高齢化により負担が増大し、保全管理の作業を行うことが難しくなってきた。
- 田んぼの畔の草刈りや水路の清掃の回数が少なく、害虫が発生しているところがあった。また、道路からのポイ捨てが度々見受けられた。

取組内容



- ため池内の清掃
- 農道・水路の草刈、泥上げ
- 施設の定期的な巡回・点検



ため池の清掃



水路の泥上げ

取組の効果

- ため池を中心とした保全活動に17人が参加したり、各担当での草刈りは年3回以上行い地域全体での保全管理の意識も高まってきた。
- 年に1度ため池内の倒木の除去や周辺のゴミ拾いを行い、日頃より施設の管理を行うようになった。



ため池周辺の草刈



構造改革の後押し等地域農業への貢献

平地農業地域



キーワード

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

しみずがわのうち・みず・かんきょうほぜんこうじょうたいさくきょうぎかい なんぶちょう

清水川農地・水・環境保全向上対策協議会（鳥取県南部町）

- 地域の美しい農村環境を守ることを目的に平成20年度から本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策交付金による取組を実施し、平成26年度に本交付金へ移行し、集落全体で取り組みを実施
- 本地域（組織）の特徴として、農地維持活動を実践するとともに、地域内外の住民連携して、古代米（黒米）の作付けを行うなど、地域の繋がりをより活発にする活動が盛んに行われている。
- 地域の中心経営体である「合同会社清水川」を中心として、地域全体で農地及び地域を守るという高い志をもって活動を行っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 7.6ha
(田 7.6ha)
- ・資源量 水路2.0km
農道2.2km
- ・主な構成員 自治会、子ども会、農業法人
- ・交付金 約0.63百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、人口減少や高齢化により農業従事者が減少傾向にあり、将来、地域の農地が維持管理できなくなるのではないかと不安があった。
- また、地域内のほ場は比較的小規模なものがおおく、効率性に乏しいことから、担い手を育成し、農地の集積を図る必要があった。



清水川地区の農地

取組内容



- 女性が活動組織代表者となり、女性が活動に積極的に参画している。



- 子供会(小学生)に水棲生物の生育状況の把握活動を実施している。



- 地域住民とともにボランティアの大学生が「古代米」を栽培に携わっている。



古代米の田植作業

取組の効果

- 交付金の活用により、地域で農地等を保全管理するだけでなく、地域のコミュニティ強化の取組を通じて、20戸ある農業をされない世帯をはじめ、大学生、地域内外で活躍する団体とのつながりを広げることができた。

- 代表を含め、地域の女性が活動の中心を積極的に担っています。古代米や古代米を使用した清酒の販売、学生ボランティアとの交流や農泊など、様々なアイデアを地域で実行し、地域コミュニティの維持や発展に努めています。



古代米酒の新聞記事



古代米酒



【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積20.66ha
(田19.03ha、畑1.63ha)
- ・資源量 水路7.1km
農道4.2km
- ・主な構成員 農業者、木梨自治会、
農事実行組合等
- ・交付金 約1.5百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

きなしちいきかんきょうほぜんくみあい

とっとりし

木梨地域環境保全組合（鳥取県鳥取市）

- 木梨地域環境保全組合は、圃場整備から年月が経過した圃場・施設を維持することを目的に平成19年より本交付金による取組を実施
- 本地域（組織）の特徴として、地域の若い力を活かし、遊休農地発生防止に取り組んでいる。
- この活動により、活動開始以前は老朽化した水路が多くあったものが、年次的に更新できたことで、農村維持が図られた。
- これにより、新たに施設整備計画や担い手の確保について模索している。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、高齢化により担い手が減少し、将来における担い手確保が課題となっていた。
- これから増加が見込まれる、ふるさと鹿野等の外部からの担い手との連携やほ場管理の課題。
- 老朽化した水路・農道や未整備の施設が多くあり、将来への設備維持の課題。



水路が未整備



保管理に苦慮

取組内容



- 女性会や子ども会を構成員とした活動



- 農村環境保全活動による景観形成活動を地域住民と実施



- 毎月の定例会で活動報告や普及啓発を実施



- 施設等の定期的な巡回点検・清掃を実施



子ども会との
普及啓発活動



施設の点検

取組の効果

- 毎年景観形成活動に20人程度が参加し、農村維持・環境の保全に係る理解が増進。
- また、対象農用地において、水路修理を行ったことで、漏水が減り一定の水量が確保され、安定した農業生産を持続することができた。
- 高齢化の進行や担い手の撤退により、施設の整備計画や新たな担い手確保について模索が必要。



景観形成活動



土水路から
コンクリート水路へ整備



農業用施設の機能増進

平地農業地域

2



9



12



15



キーワード

農業用施設
の機能増進組織の広域化
・体制強化

くめがはらちいきのうち・みず・かんきょうほぜんそしき

くらよしし

久米ヶ原地域農地・水・環境保全組織（鳥取県倉吉市）

- 肥沃な畑地帯である久米ヶ原台地では大山山麓から流れる清涼な水を使用し、倉吉市の特産物である「倉吉スイカ」を中心に野菜や飼料作物が生産されている。
- 久米ヶ原地域農地・水・環境保全組織は、豊かな久米ヶ原台地とかんがい施設を次世代へ繋ぐため、平成19年（農地・水・環境保全向上対策事業）に11集落からなる広域組織として設立し、多面的機能支払制度の創設後も引き続き活動を続けている。
- 本地域の水系を管理する久米ヶ原土地改良区に事務委託することにより、広範囲且つ長期的な施設の整備計画を進めている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積268ha
（田1.8ha、畑241.6ha、草地24.6ha）
- ・資源量 水路46.6km
農道49.2km
ため池2箇所
- ・主な構成員 農業者、自治公民館、
久米ヶ原土地改良区
- ・交付金 約10.9百万円（R4）

農地維持
支払資源向上
支払
（共同）資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 広大な久米ヶ原台地は複数の集落にまたがっているため、草刈りや泥上げ等の維持活動を実施する際に各集落の連携が必要。
- 水源としてパイプラインが広範囲に設置されているため、定期的な更新が必要。
- 未舗装農道や土水路が多いため保全管理に苦慮しており、計画的に農道や水路の更新が必要。
- 営農条件の悪い農地では、継続した営農が困難で耕作放棄地が点在している。



耕作放棄地解消中

取組内容



- 農地、農道、水路の維持管理（草刈り・泥上げ等）

R4実績
各集落とも年2～3回実施

- パイプラインの老朽化部分の補修、素掘り水路からコンクリート水路へ更新等

R4実績
パイプラインの
補修 75m 1,660千円
コンクリート水路へ更新 160m

- 耕作放棄地を解消した農地の日照を確保するための支障木の伐採



取組の効果

- 広域組織のため、各集落との連携を図ることができ、効率的な共同作業が可能となり、荒廃農地にならないよう、豊かな環境が守られている。また、農業用施設が守られることにより、突発的な事故を予防でき、安心した施設管理に繋がっている。
- 土地改良区が事務局をすることで、計画的に施設の改修を実施出来ている。
- 施設の改修により農地の耕作条件も良くなり、新規就農者も増え、継続した営農が可能となった。
（新規就農者はR3に6名、R4に4名増加）
- 安定した農業用施設の管理により、生産者の意欲が向上し、生産性や収益性も向上し、特にスイカは「倉吉スイカ16億円達成プロジェクト」に繋がっている。



地域防災(田んぼダム)の取組の推進

平地農業地域



キーワード

地域防災(田んぼダム)の取組

若者女性などの多様な参画

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

えげぶらくちいきしげん・かんきょうほぜん

とっとりし

会下部落地域資源・環境保全プロジェクト(鳥取県鳥取市)

- 老朽化が進行しつつある圃場・施設を維持し、地域の自然環境を保全するため、平成19年より本交付金による取組を実施。
- 代表的な水瓶である「大堤池」では、毎年池の水抜きの際に地域内外の概ね200人が参加し、県無形民俗文化財にも指定されている、ため池管理の一環として伝統的に行われている伝統的漁法である「うぐい突き」を行い、農村文化の伝承につながっている。
- 非農家や学生等、様々な個人・団体からの参画を得て、農村環境の維持及び地域の活性化が図られた。また、積極的に女性役員の参画を行っている。
- 令和4年度から田んぼダムに取り組むなど、地域防災に係る取組を行っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積21.79ha
(田17.52ha、畑4.27ha)
- ・資源量 水路6.2km 農道1.5km
ため池3箇所
- ・主な構成員 農業者、会下自治会、
土地改良区、
農事実行組合等
- ・交付金 約1.8百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や世帯数の減少により、担い手確保のみならず、集落を維持できるかという心配がある。
- 老朽化した水路・農道や鳥獣被害対策における将来的な不安がある。
- 歴史的な農業資源を後世へ残して行くため、地域住民外の参画による継続的な取り組みや、地域活性化へ繋げることが必要。
- 近年の豪雨災害への対策も必要。



うぐい突き



保安全管理に苦慮

取組内容

- 女性役員の登用や、子どもを含む地域外住民を交えた活動を実施
- 農村環境保全活動による景観形成活動を各種団体と実施
- うぐい突きの開催や芝桜による景観整備を実施
- 田んぼダムにより水田貯留機能の強化を図る等、防災・減災の取組を実施



小学生の校外学習



田んぼダム

取組の効果

- 毎年景観形成活動に多くの人々が参加し、農村維持・環境の保全に係る理解が増進。地域外からたくさんの方が訪れる癒しの空間となっている。
- 「大堤うぐい突き」は伝統文化として地域外の方にも認知され、実施日には多くの方が訪れる賑わい創出の場となっている。
- 田んぼダムの効果として、近隣河川より細く流れの速い永江川等への水量抑制効果が期待される。



景観形成活動



芝桜「大堤池」

ひがしいなばかつどうそしき

いわみちょう

東因幡活動組織（鳥取県岩美町）

- 本地域は、江戸時代中期に傾斜地を開墾し形成された「横尾棚田」が広がる。平成8年に地元農家有志が「いがみ田を守る会」を結成し保全活動を開始。
- 平成9年から行っている「棚田オーナー制度」では、町内外からオーナーを募り、大学生ボランティアとともに田植え・稲刈り・水路清掃などの農作業を協力して実施。秋には収穫祭で交流を深めている。
- 中山間直払と多面直払制度を活用した水路の修繕や鳥獣害防護柵の設置等により農用地の維持管理を行い、地域外の方々との交流を推進し地域の活性化を図っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積15.8ha
（田15.8ha、畑0ha）
- ・資源量 水路10.2km
農道4.5km
- ・主な構成員 農業者、非農業者等
- ・交付金 約1.3百万円（R4）

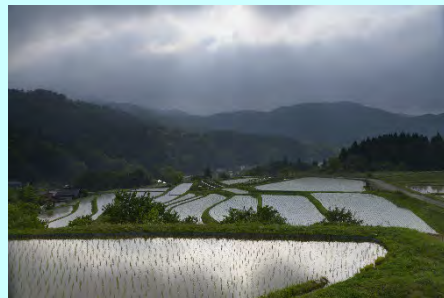
農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化、鳥獣被害により耕作放棄地が増加し景観も悪化
- 保全のため、守る会が活動を始めましたが、農作業の担い手確保が課題
- 山腹に伸びる老朽化した水路の維持管理も農業者の負担となっていた



横尾棚田

取組内容



- 町内外から棚田オーナーを22名（R4実績）受け入れ、都市・農村交流を推進



- オーナーや大学生ボランティアと協力し、水路清掃等の維持活動を実施



- 増加する鳥獣被害対策として防護柵の設置・修繕を実施



水路清掃（泥上げ）

取組の効果

- 交付金を活用することで農用地が適切に維持管理され、棚田オーナー制度とボランティア受入は20年以上継続している。
- 棚田オーナーと大学生ボランティアの受け入れにより農作業の担い手確保と都市農村交流が図られている。年間延べ100人以上が活動に参加。
- 令和4年には「つなぐ棚田遺産」にも認定された。



田植え・稲刈りイベント



なかむらちいきしげんこうじょうかつどうそしき

だいせんちょう

中村地域資源向上活動組織（鳥取県大山町）

- 中村地域資源向上活動組織は、農地、農業用施設の保安全管理、農村環境の保全を目的として、平成19年度より農地・水・環境保全向上対策に取組み、継続して活動している。
- 地域の農業者の高齢化等により、農業施設の保安全管理が困難になりつつあり、後継者、担い手の育成が課題となっていた。
- この活動により、非農家を含む地域住民へ参画が促進され、地域一体となって農村環境を維持管理する体制が構築されてきた。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積18.4ha
(田14.34ha、畑4.06ha)
- ・資源量 水路3.2km
農道4.2km
- ・主な構成員 農業者・地域住民
- ・交付金 約1.3百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の 状況や課題

- 地域の農業者の高齢化、後継者の不足により農業施設の保安全管理の作業を行うことが難しくなってきた。
- 担い手への作業の集中による維持管理作業の効率の悪化が懸念されていた。

取組内容



- 持続可能な保安全管理を目的とした、農道、水路等の草刈りの省力化。
- 機械除草の導入により維持管理作業の効率の向上を図った。



機械による草刈り作業

取組の効果

- 刈払機での草刈りに比べ、作業時間が1/4に削減でき、作業効率が向上。
- 農地法面が急勾配で、人力での草刈り作業が困難な箇所にも機械を活用することで、安全にきれいな刈り取りが実現できている。
- 農道・水路の法面草刈作業人数が約1/10に削減でき、個々の農用地の所有者が行っていた隣接の農道・水路の草刈り作業がなくなり、より農用地の管理や水路の作業等に時間をとれるようになった。



水路泥上げ作業



水路法面草刈り



やさちょうのうち・みず・かんきょうほぜんかんりきょうてい

はまだし

弥栄町農地・水・環境保全管理協定（島根県浜田市）

- 本地域は浜田市街地から25km離れた中国山地に位置し、水稻を中心とした農業を行っている。
- 平成19年度より旧村単位で本事業に取り組む広域活動組織。26自治会を12地区にまとめて活動を実施。
- 土木経験者を中心に5つの「作業班」を編成し、営農組織との連携を取りながら直営施工による農業用施設の補修等を実施。「作業班」の活動範囲は決めずに、重機を所有している、左官作業が得意といった班ごとの特性を活かしながら地域全体で活動。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積308.70ha
(田283.4ha、畑23.4ha、草地2.0ha)
- ・資源量 水路182.8km
農道185.8km
ため池16箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会等
- ・交付金 約25百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 弥栄町内のほ場整備率は約80%と高く、集落営農にも積極的に取り組まれている地域。
- 高齢化率は40%を超え、人口減少も進み、農村環境の保全が危ぶまれている状況。
- ほ場整備後50年近くが経過している地区もあり、農業用施設の老朽化が進み、用水路の漏水などにより、耕作に支障が出ている。



弥栄町の風景

取組内容

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



- 営農組織との連携が強く、老朽化した農業用施設の補修に積極的に取り組んでいる。
- 土木経験者を中心に「作業班」を5班編成し(1班を4~5名)、各自治会から要望のあった箇所の補修を直営施工で実施。
- 各作業班がそれぞれの得意分野を活かし、地区ごとではなく、地域全体で横断的に活動を実施。



水路の嵩上げ



水路の更新

取組の効果

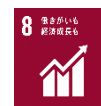
- 農業用施設の不具合箇所について、自分たちで協議し、解消したことで、営農作業の効率が上がるとともに、「自分たちの手で農地を守っている」という意識から遊休農用地発生防止にも役立っている。
- 農業用施設の長寿命化を図ることによって、営農意力の向上など、営農組織の活性化になっている。
- 作業班の取組を行うことにより、自分たちの力で農業用施設を保守していく意識が高まり、さらに技術も身につけてきている。



コンクリート擁壁の嵩上げ



水路の更新



くまみちいき

おおちぐんみさとちょう

熊見地域アグリネット（島根県邑智郡美郷町）

- 本地域は、美郷町の東部に位置する集落で水稻を中心とした農業が行われている。
- 平成19年度から本交付金の前身である農地・水保全管理支払交付金による取組を実施しており、取り組む前は個人で行っていた農地周りや水路、農道の保全管理作業、鳥獣害防止対策を共同で行うようになり、地域住民の一体感が深まった。
- 高齢化や農家数の減少により発生した50aの休耕田を活用してヒマワリや菜の花を栽培することで、美しい農村風景が生まれ、多くの見学者やカメラマン等で集落が賑い、活気が生まれた。地元連合自治会が搾油業者に委託し、ヒマワリや菜の花の種から食用植物油を製造・販売している。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積10ha
(田9.6ha、畑0.4ha)
- ・資源量 水路4.7km
農道3.3km
- ・主な構成員 農業者、非農業者
- ・交付金 約0.47百万円(R4)

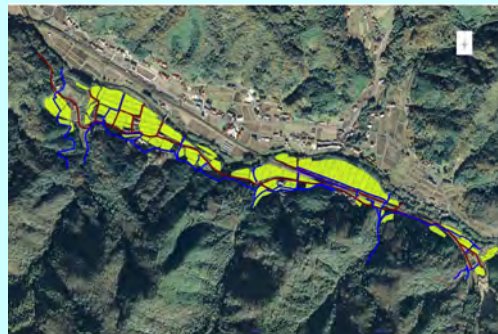
農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 平成元年に標準20a区画のほ場整備が完了。
- 本活動取組前は、農地周りの草刈りや水路の泥上げや補修等を個人で行っていた。しかし、高齢化や人口減少により個人での農地や水路等の保全管理が困難となり、耕作放棄地の発生が懸念されるようになっていた。



活動対象区域

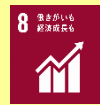
取組内容



- 農地周りや水路、農道法面の草刈り、水路の泥上げ、農道路面の維持。



- 畦畔の補修、簡易な水路の修繕(目地詰め、嵩上げ)。



- 鳥獣害防止対策として、イノシシ侵入防止柵や捕獲檻の設置。
- 景観保全として、休耕田にヒマワリや菜の花を植栽。



水路の泥上げ



水路の嵩上げ



イノシシ捕獲檻設置



休耕田の活用

取組の効果

- 集落みんなで農地等の地域資源を守ろうという意識が強くなり、地域住民の一体感が高まった。
- 鳥獣害防止対策で捕獲したイノシシを町に引き渡し、町が推進する「おおち山くじら」のジビエ利用促進に貢献。
- ヒマワリ等の種から搾った植物油「銀の香」がふるさと納税の返礼品に採用される。
- 休耕田を活用した景観保全を行ったことにより、満開時にはSNS等で紹介すると町外から多くの人々が訪れ、集落が賑やかになり活気が出てきた。



銀の香



カメラマン



ながたしゅうらくのうち・みずほぜんかんりかつどうそしき

やすぎし

永田集落農地・水保全管理活動組織（島根県安来市）

- 本組織は安来市の最南端、比田地区に位置し、約20a区画の農地で水稻を中心に営農が行われている。
- 営農する農家の高齢化が進み畦畔等の草刈作業が困難になる中、草刈作業の省力化を図ることを目的として本事業を活用し取組を開始。
- 水田畦畔にシバザクラを植栽し、長大かつ急傾斜な農地法面の草刈作業が省力化され、耕作放棄地の未然防止、棚田景観の保全に大きく貢献している。また、この景観を活かしたイベント「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催、地域の活性化に結びつけている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積26.7ha
（田26.4ha、畑0.3ha）
- ・資源量 水路3.5km、農道1.1km、
ため池1箇所
- ・主な構成員 農業者、非農業者、
自治会、小学校等
- ・交付金 約2.3百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 昭和63年には場整備が完了し、約20a区画で営農が行われている。
- 草刈りや水路泥上げ等は従来から各農家で実施していたが、高齢化が進行する中、山間地の棚田特有の急傾斜で長大な畦畔の草刈作業が重労働かつ危険な状況であり、離農や耕作放棄が懸念されていた。



活動対象区域

取組内容



- 草刈作業の省力化、農村景観の更なる向上を目指し、農地法面へシバザクラを植栽。



- シバザクラの植栽活動は農業者が中心だったが、現在は非農業者や地元小学校の児童も参加する地域全体の共同活動として展開。



- 地元にとびえ立ち伝説が語り継がれる「猿隠山」にちなみ、毎春「猿隠高原シバザクラ祭り」を開催。県内外へPR活動展開し、関係人口の増加と地域活性化に取り組む。



植栽活動



小学校との連携

取組の効果

- シバザクラの植栽により草刈作業が省力化され、耕作放棄地の未然防止や棚田の景観保全につながったほか、防草効果でカメムシ等による被害米が減少し、農薬を節減する栽培ができ、ブランド米の出荷に結びついている。

- 共同作業として誰でも参加しやすい取組が進められ、参加者の7～8割が女性で地域住民同士の協調性や共助の意識が醸成された。

- シバザクラ祭りの来客者数は3,000人を超え、都市部からも多くの鑑賞者が訪れるなど関係人口が増加。マスコミからの取材もあるなど、地域活性化につながっている。



棚田を彩るシバザクラ



シバザクラ祭りの様子



あといちかんきょうほぜんくみあい

ごうつし

跡市環境保全組合

(島根県江津市)

- 本地域は、江津市の市街地より南に6km程離れた山間農業地域で、農地が点在しており、水稻を主として個人で農業を行っている。
- 平成19年度より「農地を守る」ことを目的として、4町内20集落で形成されるコミュニティセンター単位で跡市環境保全組合を設立。
- 農村の伝統文化を次世代へ継承する活動として、近隣数軒で共同作業として行う「花田植え」や、農地保全の必要性についてワークショップを行うなど、農村コミュニティの強化を図っている。
- 平成25年8月の豪雨災害を契機に、被災時の報告体制の整備に加えて、被災箇所の応急措置に本交付金が活用できることを地域住民に周知するなど、地域全体で迅速な災害対応ができる体制づくりに努めている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積42.4ha
(田37.1ha、畑5.3ha)
- ・資源量 水路16.4km
農道37.0km
ため池1箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会、女性会等
- ・交付金 約2.7百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、営農条件のよい農地を中心に、昭和50年代半ばから平成10年代半ばまでに4回ほ場整備を実施。
- 活動開始前から跡市地域コミュニティ交流センター単位のイベントは多く行われていたが、農地が点在していることもあり「農地は個人で守る」という意識が強かった。



活動対象区域

取組内容



- 農村の伝統文化を次世代へ継承する活動として花田植えを実施。



- 跡市地域の将来を農地保全の面から考える機会として地域住民等によるワークショップを開催。



- 被災時の報告体制の整備など、迅速な災害対応ができる体制づくり。



花田植え(練習)



ワークショップ

取組の効果

- 花田植え※の活動を通じた農村コミュニティの強化だけでなく、地域内外から100人以上の見学者が訪れ、地域の活性化にもつながっている。
- ワークショップや共同活動を行うことにより、「農地は個人で守る」という意識から「地域全体で農地を守る」という意識に変化した。
- 集落代表等が平面図に被災箇所を記載し、相互に状況確認をすることによる迅速な応急対応で、営農の継続、行政機関への円滑な被害報告も円滑が可能となった。



花田植え



災害時の応急措置

※花田植え・・・共同で田植えを行っていた頃、さら、笛、太鼓等の囃子で田植え歌を歌い、作業効率を上げていた風習を伝統芸能として保存・伝承しているもの

こそしかみぐみのうちほぜんかい

まつえし

古曽志上組農地保全会（島根県松江市）

- 松江市街地から西へ約5kmに位置する18戸の集落で水稻を中心とした農業が行われている。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策（現：多面的機能支払交付金）に取り組んでおり、以前は個人や土地改良区が行っていた水路、農道、ため池の保全作業を保全会が行い、担い手農家の労力負担を軽減し、地域農業の振興と活性に寄与。
- 農地の大区画化・汎用化を図り、併せて地域内の大規模経営体への100%の農地集積を目指し、令和2年度からほ場整備を実施中。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積21.9ha
（田21.1ha、畑0.8ha）
- ・資源量 水路5.1km
農道3.3km
ため池3箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会
- ・交付金 約1.04百万円（R4）

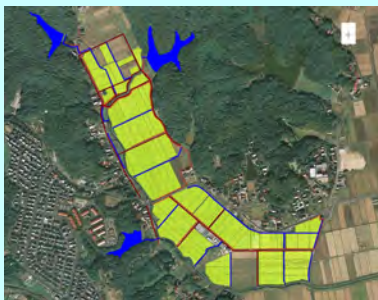
農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 平成2年に、標準30a区画のほ場整備が完了。
- 本活動開始前は、年1回の水路の泥上げ、河川、ため池の草刈を土地改良区で実施し、農道の草刈は各農業者が行っていた。しかし、高齢化等により耕作を担い手農家へ委託する人が増え、労力負担が大きくなり、担い手農家への農地集積が阻害されていた。



活動箇所

取組内容



- 水路、農道、ため池の草刈、水路、農道側溝の泥上げ、農道路面の維持作業の実施。



- 草刈の省力化と景観保全のため「シバザクラ」「松葉ボタン」の畦畔への植栽・管理。



- 在来種である彼岸花の育成・管理。



道路法面、畦畔の草刈



シバザクラの植栽

取組の効果

- 非農家が中心となっていく、水路・農道・ため池の保全作業が担い手農家の負担軽減となり、地域内の大規模経営体への100%の農地集積を目指して「ほ場整備」を実施中。
- 地域住民が参加しやすい植栽活動等に取り組むことで、共同活動への関心が高まった。
- 春はシバザクラと松葉ボタン、秋には彼岸花とそばの花で地域内外の人の目を楽しませている。



ヒガンバナとそば畑



シバザクラ



女性参画による活動の推進

山間農業地域



キーワード

地域資源の
安全管理

若者女性など
の多様な参画

教育機関との
連携

ますだし

なでしこ（島根県益田市）

- 中山間地域等直接支払の取組開始と併せて令和2年度より本交付金による取組を開始。
- 女性が主導権を持ったほうが、まとまりやすいとのことから、仲良し3人組でグループを作ったのが始まりで、代表、副代表、事務局を女性で構成されている。
- 「なでしこ」の位置付けとしては、新たな組織として新たな活動を開始するのではなく、地区の既存の各団体の輪の中に入り、従来の活動の役割を分担する組織とし、活動している。
- 保育園と連携した生き物観察や植栽活動、中学生や高校生との農業体験活動など女性の力を活かし、地域に溶け込んだ実直な活動が展開されている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積1.76ha
(田1.76ha)
- ・資源量 水路2.2km
農道1.2km
- ・主な構成員 農事組合法人 等
- ・交付金 約0.1百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、人口300人余りの山間農業地域であり、人口減少と高齢化が進んでいる。
- 草刈りや泥上げなどの保全活動は地域の担い手である営農組合が中心となって行っているが、農業の担い手の確保は地域の課題となっている。
- 地域の水路は一部土水路であり、毎年の泥上げなど管理が重労働なため、労力軽減に向けた検討が必要となっている。

取組内容



- 女性主導による組織運営。
- 保育園との生き物観察や植栽活動、中学生や高校生との農業体験活動。



- 農地周りや水路、農道面の草刈り、水路の泥上げなどの維持活動。



仲良し3人組 (組織役員)



高校生の農業体験学習



維持活動
(農地周りの草刈)

取組の効果

- 女性たちの元気で明るい活動に魅力を感じ、地域内外から若者が自ら活動に参加している。
- 子どもたちの学びの場や遊び場の確保することで後継者を育成。
- 継続的な地域資源の保全管理に貢献。
- 地区のFacebookに活動を投稿するなど、組織内外へPRしている。



管理された水路で
遊ぶ子どもたち



資源向上(共同)による
パイプライン化